

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
生活科学概論	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	1	生活科学科の前身は家政科であるが、生活科学は、家政学を発展させた形の学問として、家族のみならず地域、民族、世界を時には宇宙を意識しながら、私たちの生活を科学的に考察することを目的としている。基本的には日本に暮らす私たちの実生活の向上を第一目標とし、生活を足下から評価・判断し、それを認識するだけでなく、生活行動としての新たな力、さらに社会への発展的な力を養い身につけるよう勉強する教科である。	・生活科学という総合的学問は、衣・食・住を始め、家族・社会・情報メディアなど「生活」と関わるテーマを科学的に研究しようとする学問であることを理解し、具体的に説明できるようになる。（知識・理解） ・身近な事例について、必要なデータを集めて評価、判断し、自分の意見を実践的に説明できるようになる。（思考・判断・表現）	・生活科学という総合的学問は、衣・食・住を始め、家族・社会・情報メディアなど「生活」と関わるテーマを科学的に研究しようとする学問であることを最低限理解し、基本的なことについては説明できるようになる。（知識・理解） ・身近な事例について、必要なデータを集めて評価、判断し、自分の意見を基本的なことについては説明できるようになる。（思考・判断・表現）
食生活論	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	1	食生活論は食品供給の要素、食物調理的要素、文化的・心理的要素、生理的・栄養的要素で構成され、それぞれに背景となる多くの学問分野が存在する。本科目では、過去から現在に至る食生活の変化を理解し、現状を分析して課題を見出し、未来に向けてその解決をはかりながら自己の食生活に活用していくことを理解する。	・過去から現在に至る食生活の変化を理解し、現状を分析して課題を見出し、未来に向けてその解決をはかりながら自己の食生活に活用していくことができる。（知識・理解） ・ライフステージの特性を知り、ステージに合った食生活を適切に計画できる。（技能） ・個人の食生活が地球レベルの社会・環境問題に繋がっていることを理解し説明できる。（思考・判断・表現）	・過去から現在に至る食生活の変化を理解し、現状を分析して課題を見出し、未来に向けてその解決をはかりながら自己の食生活に活用していくための基礎的事項を活用できる。（知識・理解） ・ライフステージの特性を知り、ステージに合った食生活を行う必要性を説明できる。（技能） ・個人の食生活が地球レベルの社会・環境問題に繋がっていることの基礎的事項を理解し説明できる。（思考・判断・表現）
衣生活論	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	1	衣服は人体を覆うものであり、心と身体を包む最も身近な人工の環境ともいえる。持続可能な衣生活に必要な衣料素材や表示情報、製造と流通、管理と環境との関わりについて理解する。さらに、衣服の持つ多面的な機能や役割、衣服の起源や変遷、グローバル化を背景とする技術革新、日本人としての文化的な背景を学び、これからの衣生活のありかたを考察する。	・衣服の素材や製造、管理と環境との関わり、技術革新に関する基礎的な知識を理解し、総合的に説明できる。（知識・理解） ・衣服の社会的な役割を理解した上で、TPO やライフステージに応じた衣服を適切に選び、衣服の計画的な購入を示すことができる。（思考・判断・表現） ・衣生活の変化に関心を持ち、これからの衣生活のありかたを具体的に示すことができる。（思考・判断・表現）	・衣服の素材や製造、管理と環境との関わり、技術革新に関する最低限の知識を理解し、必要に応じて説明できる。（知識・理解） ・衣服の社会的な役割を理解した上で、TPO やライフステージに応じた衣服を適切に選ぶことができる。（思考・判断・表現） ・衣生活の変化に関心を持ち、これからの衣生活のありかたを示すことができる。（思考・判断・表現）
住生活論	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	1	住宅は住生活の容れものである。住生活に必要な空間が住宅に備わっていないと認められない。現代住宅が歩んで来たプロセスとその背景にある文化と人の暮らしを見つめ直して理解し、さらに、将来の私たちの住まいのあるべき姿を考える。	・身近にある住まいについて、住居と住生活に関する知識を理解し、具体的に説明できるようになる。（知識・理解） ・今後の自分と住まいとのつきあいをより良いものにしていくために必要な実践的な洞察力、判断力を身につけ、具体的な提案として説明することができるようになる。（思考・判断・表現）	・身近にある住まいについて、住居と住生活に関する最低限の知識を理解し、基本的なことについては説明できるようになる。（知識・理解） ・今後の自分と住まいとのつきあいをより良いものにしていくために必要な最低限の洞察力、判断力を身につけ、基本的なことについては提案として説明することができるようになる。（思考・判断・表現）
心の健康	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	1	自分の好み・考え・価値観を中心にした生活をするのが良いと思う人たちが増えてきている。このように多様化した現代の社会の中で健康で充実した生活を送るためには、自分のことについて、ある程度は理解していることが必要である。また、ストレスとトラウマを乗り越えていくためにも、カウンセリングについての情報が役に立つ。この講義をとおして、心について学ぶことで自己理解を進め、さらに自己コントロールの方法を理解していく。	・自己分析、自己コントロールの大切さを十分理解して説明できる。（知識・理解） ・カウンセリングの手法を通して、自己や・他者を分析し、その行動を解釈することができる。（思考・判断・表現）	・自己分析、自己コントロールの大切さをおおよそ理解して説明することができる。（知識・理解） ・カウンセリングの手法を通して、自己や・他者を考察するための基礎を説明できる。（思考・判断・表現）
環境と消費	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	2	物質至上主義がもたらした生態系や文化の破壊、貧困や失業の蔓延などは、これから何世代もが直面しなければならない最大の問題になると考えられる。特に魅力的で消費的なライフスタイルを支える生産と消費のプロセスのままで、私たちの21世紀の社会は不可能なものになるしかない。授業では消費的な価値観を根本的に変えるための現実的で、斬新的な取り組みを考察する。	・持続可能な社会の実現のために、解決しなければならない課題を解釈し、それに対する方策を具体的に説明できる（知識・理解） ・持続可能な消費とライフスタイルのあり方を深く理解し、具体的に行動に結びつけることができる。（知識・理解）	・持続可能な社会の実現のために、解決しなければならない基本的な課題を解釈し、それに対する方策を簡単に説明できる（知識・理解） ・持続可能な消費とライフスタイルのあり方を理解し、基本的な事項について行動に結びつけることができる。（知識・理解）
チャレンジ・ゼミナール	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	1	早い時期から卒業後の進路について考え、情報を集めることは、在学中の学習にとっても、さらに長い人生においても大切なことである。この科目では、生活科学科の特別講義やイベント、就職進路課や入試事務室の進路支援プログラム、学生課の正課外授業等への参加を積み重ね、卒業後の進路についての学習を深め、準備する。これらの活動状況を担当担任に報告し感想文提出を行いながら指導を受けて進める。	・在学中に直面することが予想される就職活動・編入学等の進路選択に必要な洞察力、判断力を身につけ、必要な学習を実践的に取捨選択できるようになる。（思考・判断・表現） ・進路に関連する在学中の学習に関心を持ち、積極的に取り組む能力を身につけ、自身の活動として主体的に実践することができるようになる。（関心・意欲・態度）	・在学中に直面することが予想される就職活動・編入学等の進路選択に必要な最低限の洞察力、判断力を身につけ、必要な学習を取捨選択できるようになる。（思考・判断・表現） ・進路に関連する在学中の学習に関心を持って取り組む能力を身につけ、自身の活動として実践することができるようになる。（関心・意欲・態度）
卒業研究・卒業制作	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	4	2	シラバスに従って年度当初に設定された内容に取り組む講義や演習・実習の授業とは異なり、教員と少数の学生（マンツーマンを含む）が互いに議論しながら課題を発見し、論理的に正しい筋道を立てて取り組む教科である。教員の研究室または演習室で課題に一年間取り組み、研究の場合は発表と論文を書くことにより、制作の場合は発表と作品提示を行うことにより単位を認定する。これにより、長期間一つの課題に深く取り組むことの重要性を認識するとともに、発表を行うことでプレゼンテーションの練習も行うことになる。評価の基準、評価方法は教員により、課題の内容によりそれぞれ異なっている。	・自分でテーマを見つけ、自分の考えを言葉や形で表現し、実践的に説明することができる。（思考・判断・表現） ・プレゼンテーションに関する基礎的な力を学科全体の発表の場で発揮し、発表することができる。（技能） ・長期間一つの課題に深く取り組んで理解を深めることにより、基礎的な持続力や集中力を身につけ、成果を形にすることができる。（関心・意欲・態度）	・自分でテーマを見つけ、自分の考えを言葉や形で表現し、基本的なことについては説明することができる。（思考・判断・表現） ・プレゼンテーションに関する最低限の力を学科全体の研究発表の場で発揮し、発表することができる。（技能） ・長期間一つの課題に深く取り組んで理解を深めることにより、最低限の持続力や集中力を身につけ、成果を形にすることができる。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年		到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
キャリア実務入門	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	1	卒業後の進路について、具体的な働き方や将来像を思い描き、そのために必要とする能力や資格の習得、専門的な知識や仕事内容の概要について、オムニバス形式の講義を通して理解する。さらに、生活科学科に関連する資格や仕事を対象に、実践的な報告事例を学ぶことから理解を深める。	・卒業後の進路について、具体的な働き方や将来像を思い描き、述べるができる。（知識・理解） ・自分のキャリア形成に必要とする能力や資格、具体的な習得方法を的確に示すことができる。（知識・理解） ・就学期間を準備期間として積極的に活用する計画を示すことができる。（関心・意欲・態度）	・卒業後の進路について、働き方や将来像を思い描き、述べるができる。（知識・理解） ・自分のキャリア形成に必要とする能力や資格、習得方法を示すことができる。（知識・理解） ・就学期間を準備期間として活用する計画を示すことができる。（関心・意欲・態度）
CG基礎演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザイン コース食・健康 コース	1	1	デジタルデザインの入門として、Illustrator、Photoshopの基礎的なオペレーションを学ぶ。それぞれのソフトウェアが持つ多彩な機能について学び、練習課題を通して操作スキルを習得する。また、PC上の代表的なデザインツールであるIllustratorとPhotoshopの基礎操作を学びながら、デジタルデザイン制作の用途の違い（印刷物またはWEB）、設定方法、画像フォーマットの種類等、デジタルデザインに必要な基礎知識も身につける。	1. Adobe Illustratorの用途・機能を知り、基礎的な操作ができる。（知識・理解、技能） 2. Adobe Photoshopの用途・機能を知り、基礎的な操作ができる。（知識・理解、技能） 3. IllustratorとPhotoshopを連携して使用することができる。（知識・理解、技能） 4. デジタルデザインの基本的な制作手法を学び、プレゼンテーションのためのドキュメント制作ができる。（技能）	1. Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。（技能） 2. Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。（技能） 3. IllustratorとPhotoshopを連携して使用することができる。（知識・理解） 4. 基礎的なデジタルデザイン、アートワークを作成し、プレゼンテーションやドキュメント作成に利用できる。（知識・理解）
CG応用演習	生活科学科 専門教育科目 メディア社会 コース	1	2	デジタルデザインの応用として、Illustrator、Photoshopのオペレーションを踏まえながら、ページレイアウトの制作手法を学ぶ。IllustratorやInDesignによる編集デザインの基礎を習得し、出版物の原稿・画像データの準備、編集、デザイン、レイアウトなどの作業を行う。クリエイティブな課題作品制作を通じて、印刷を想定した出力までのワークフローを理解する。	・ Adobe InDesign、Illustrator、Photoshopの特性を活用しながら、編集デザインのワークフローを深く理解できる。（知識・理解） ・ アプリケーションの機能を理解し、デザイン性の高いビジュアル作成ができる。（技能） ・ ページレイアウトの制作手法を学びながら、デザイン性の高い作品制作を目標にしたデータ制作、入稿、出力までの作業ができる。（技能）	・ Adobe InDesign、Illustrator、Photoshopの特性を活用しながら、編集デザインのワークフローを理解できる。（知識・理解） ・ アプリケーションの機能を理解し、基本的なビジュアル作成ができる。（技能） ・ ページレイアウトの制作手法を学びながら、基本的な作品制作を目標にしたデータ制作、入稿、出力までの作業ができる。（技能）
卒業ゼミナール	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	2	2年間の集大成として、指導教員のもと1年間にわたり各自の研究テーマに基づき、調査、実習、制作等を行ない、テーマについての理解を深める。また、その研究成果をまとめ、発表する。詳細は、各指導教員のシラバスを参照する。	・ 自分でテーマを見つけ、自分の考えを言葉で表現し、実践的に説明することができる。（思考・判断・表現） ・ プレゼンテーションに関する基礎的な力をグループ内の研究発表の場で発揮し、発表することができる。（技能） ・ 長期間一つの課題に深く取り組むことにより、基礎的な持続力や集中力を身につけ、成果を形にすることができる。（関心・意欲・態度）	・ 自分でテーマを見つけ、自分の考えを言葉で表現し、基本的なことについては説明することができる。（思考・判断・表現） ・ プレゼンテーションに関する最低限の力をグループ内の研究発表の場で発揮し、発表することができる。（技能） ・ 長期間一つの課題に深く取り組むことにより、最低限の持続力や集中力を身につけ、成果を形にすることができる。（関心・意欲・態度）
メディア社会論	生活科学科 専門教育科目 メディア社会 コース	2	1	情報の入手や流通においてソーシャルメディアが一定の役割を果たし始めた新たなメディア社会について理解を深め、情報ネットワークが生活の様々な場面に及ぼす影響について考察する。メディアから得る情報は、日常生活を送る上で必要不可欠だけでなく、私たちの考え方や生き方にも大きな影響を与えていることから、メディアから得る情報の特質や傾向、さらには各メディアの特性や歴史などを正しく理解し、活用するための知識を涵養する。	1. 情報メディアの発展と多様化が社会や個人にどのような影響を及ぼしてきたか説明できる。（知識・理解） 2. 各種メディアの役割やリスクが説明できる。（知識・理解） 3. 各種メディアを情報発信の手段として有効かつ安全に利用できる。（技能） 4. アナログメディア、デジタルメディア全般を理解し、今後のメディアの発展について意見を述べることができる。	1. 情報メディアの種類と特徴を説明できる。（知識・理解） 2. 情報メディアがどのように発展してきたか説明できる。（知識・理解） 3. 各種メディアの違いを説明できる。（知識・理解） 4. 各種メディアの長所と短所を挙げて、それぞれの活用方法を説明できる。（知識・理解）
ソーシャルメディア論	生活科学科 専門教育科目 メディア社会 コース	2	1	SNSをはじめとするソーシャルメディアが日常生活のみならず、災害時においても重要な情報網として機能することの理解を深めるとともに、ソーシャルメディアの安易な利用に伴うセキュリティやプライバシーに関わる問題にも注目することにより、正しく活用するための態度を涵養する。	1. ソーシャルメディアとは何かを簡単に定義できる。（知識・理解） 2. ソーシャルメディアに分類される代表的なオンラインサービスを列挙でき、それらのサービス内容を説明できる。（知識・理解） 3. ソーシャルメディアを含めたオンラインサービスを利用する際に注意すべき個人情報漏洩、機密情報漏洩、犯罪等の諸問題について列挙でき、例を挙げて説明できる。（知識・理解） 4. ソーシャルメディアを含めたオンラインサービスを利用する際の倫理について説明できる。（知識・理解） 5. デジタル社会におけるリテラシーについて十分な知識を持ち、基本的な使用方法を説明できる。（知識・理解）	1. ソーシャルメディアという言葉がさすことについて簡単に説明できる。（知識・理解） 2. 代表的なソーシャルメディアの種類を知り、それらのサービス内容の違いを説明できる。（知識・理解） 3. ソーシャルメディアを利用する際の個人情報漏洩、機密情報漏洩、犯罪等の諸問題について列挙でき、例を挙げて説明できる。（知識・理解） 4. ソーシャルメディアの利用者としての倫理を説明できる。（知識・理解） 5. ソーシャルメディアを利用する際に必要なデバイスやアプリの基本的な使用方法を説明できる。（知識・理解）
サステナブル社会論	生活科学科 専門教育科目 メディア社会 コース	2	2	サステナビリティ（持続可能性）は21世紀の社会を形作る上で重要な概念であることを学ぶ。その社会の担い手の一角となる生活者として、社会を結ぶ新しいコミュニケーションツールであるソーシャルメディアが持続可能な社会において果たす役割について理解を深め、その活用について様々な事例から学ぶ。	1. サステナビリティの概念を説明できる。（知識・理解） 2. 日本が抱える環境問題・課題を知り、それらを解決するための方策について説明できる。（知識・理解） 3. 日本が目指すべき持続可能な社会の在り方を考察する。（思考・判断・表現） 4. サステナブルな社会の実現に向けて、身近な問題を発見し、調査できる。（技能） 5. 持続可能な社会においてソーシャルメディアが果たす役割を知り、活用するための知識を身につける。（知識・理解）	1. サステナビリティとは何かを説明できる。（知識・理解） 2. 日本の環境に関する諸問題を知り、課題解決の方策について説明できる。（知識・理解） 3. 日本にとって持続可能な社会とは何かを説明できる。（知識・理解） 4. サステナブルな社会の実現に向けて、身近な問題を発見し、調査することができる。（技能） 5. 持続可能な社会におけるソーシャルメディアの役割を説明できる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
情報メディア演習	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	2	本演習では、情報メディアを色彩の側面から考察し、色彩力を涵養する。グローバルスタンダードなマンセルシステムを基に、美しい色と色の組み合わせ、色と形の効果的な関係、色と形の大きさやプロポーションとの関わりなど、色彩と形体の造形表現を踏まえ、実践的な配色テクニックについてデザインの視座から解説していく。魅力ある色彩で、人を惹きつけるための配色の基本システムと活用法を理解し、造形力を身につける。	・基本となる色彩システムを深く理解し、説明できる。（知識・理解） ・色彩理論、色彩調和を理解した上で、実践的な色彩感覚を適用することができる。（知識・理解） ・色彩生成、配色のさまざまな課題に対応した高い能力を示す制作ができる。（技能）	・基本となる色彩システムを理解し、簡単に説明できる。（知識・理解） ・色彩理論、色彩調和を理解した上で、基礎的な色彩感覚を適用することができる。（知識・理解） ・色彩生成、配色のさまざまな課題に対応した基礎的な能力を示す制作ができる。（技能）
アニメの物語学	文科 専門教育科目 日本文学・表現コース 生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1	「物語」とは何かについてまず考える。「物語」の定義は易しいようでいて難しい。授業では、まず「物語」についての定義を考え、その定義を用いて豊かな物語性に溢れた日本のアニメとくに宮崎駿のアニメについて学んでいく。まずは、日本のアニメの歴史を世界のアニメの歴史と比較しながら日本アニメの特徴を理解し、そこにどのような物語の文体が貫かれているかを学ぶ。さらに宮崎駿の作品の分析を通して、物語性、文化・思想的背景、込められたメッセージなどを読解する。そして宮崎アニメを手がかりに、アニメの「物語」が持つ意義について考察し「物語」の本質をより深く理解する。	・抽象的な「物語」について多様な角度から考察し定義することができる。（思考・判断・表現） ・グリム童話からディズニーアニメまでの流れを時代背景などを踏まえて的確に説明できる。（知識・理解） ・戦後の日本のアニメを時代のかかわりや物語性の観点からの確に説明できる。（知識・理解） ・宮崎駿の作品について、物語性や時代性、文化や思想という観点から要点を的確に説明できる。（知識・理解） ・物語という観点からアニメ作品について深く論じることができる。（思考・判断・表現）	・抽象的な「物語」についてある一定の定義ができる。（思考・判断・表現） ・グリム童話からディズニーアニメまでの流れをおおまかにある程度説明できる。（知識・理解） ・戦後の日本のアニメを時代のかかわりや物語性の観点からおおまかにある程度の説明ができる。（知識・理解） ・宮崎駿の作品について、物語性や時代性、文化や思想という観点からおおまかにある程度説明できる。（知識・理解） ・物語という観点からアニメ作品についておおまかにある程度論じることができる。（思考・判断・表現）
メディアデザイン論	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1	現代社会におけるデジタルメディアの現状と今後の可能性を概説し、メディアデザインについて考察する。メディアデザインはグローバル化が進む中で、膨大な情報や多様な価値観が交錯する現代社会におけるコミュニケーションやデザインの一翼を担っている。アイデンティティとしてのメディアデザインを理解することによって、これからのメディア文化に対するリテラシーを身につけていく方法論も考察する。	・造形学的な観点からメディアの歴史について解釈し、メディア文化を客観的に説明することができる。（知識・理解） ・造形原理を学びながら、「造形」「デザイン」「空間」「環境」をキーワードとしてメディアデザインについて述べる。（知識・理解） ・メディアのリテラシーを身につけ、造形、デザインの今後のあるべき姿について説明することができる。（思考・判断・表現）	・造形学的な観点からメディアの歴史について解釈し、メディア文化の基本的な事項について客観的に説明することができる。（知識・理解） ・造形原理を学びながら、「造形」「デザイン」「空間」「環境」をキーワードとしてメディアデザインの基本的な事項について述べる。（知識・理解） ・メディアの基本的なリテラシーを身につけ、造形、デザインの今後のあるべき姿について説明することができる。（思考・判断・表現）
ユニバーサルデザイン論	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	2	ユニバーサルデザイン（Universal Design, UD）に対する理解を深め、生活科学におけるその必要性と意義について考察する。言語や文化、年齢、性別、能力、経験などの差異に関わらず、すべての人に利用可能な「やさしい」デザインを考え、幅広いデザイン領域にまたがるユニバーサルデザインの将来像と現代社会における役割について解説する。身近な事例をもとに、「認知性」、「操作性」（ユーザビリティ）、レジビリティ（可読性）など、ユニバーサルデザインの原則に基づいた考察を展開する。グローバル化する現代社会において、ユニバーサルデザインに対する知見を高め、多様な生活環境やコミュニケーションを豊かにする方法論を涵養する。	・生活科学におけるユニバーサルデザインの必要性と意義について詳しく説明できる。（知識・理解） ・ユニバーサルデザイン7原則にもとづき、造形美と機能美の観点から多様性にもとづいた造形とは何かを詳しく説明できる。（知識・理解） ・造形的、色彩学の観点から「認知性」、「操作性」（ユーザビリティ）、レジビリティ（可読性）を活用する能力を示すことができる。（思考・判断・表現）	・生活科学におけるユニバーサルデザインの必要性と意義について説明できる。（知識・理解） ・ユニバーサルデザイン7原則にもとづき、造形美と機能美の観点から多様性にもとづいた造形とは何かについて基礎的な事項を詳しく説明できる。（知識・理解） ・造形的、色彩学の観点から「認知性」、「操作性」（ユーザビリティ）、レジビリティ（可読性）を活用する基礎的な能力を示すことができる。（思考・判断・表現）
CG演習A（イラストレーター）	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1	コンピュータを造形表現のツールとしたデジタルデザインを学ぶ。Macintoshの基本的な操作からスタートし、2D/3Dデザインの基礎となるIllustratorをデザインツールとして修得、デザインの基礎造形力を涵養する。また、DTP（デスクトップ・パブリッシング）の基礎を習得しながら、デジタルカラー、デジタル フォント、画像処理等の知識ベースを学ぶ。作品制作を通して、実践的なデザイン・ワークフローを修得する。	・Adobe Illustratorによる基礎技能を習得し、ビジュアル表現に適用できる。（知識・理解） ・デザインワークフローを踏まえた実践的なデジタルデザイン手法を理解し、作品制作ができる。（技能） ・手順を組み立てて工夫しながら、イメージ通りのビジュアルを自由に作成できる。（技能）	・Adobe Illustratorによる基礎技能を習得し、基礎的なビジュアル表現に適用できる。（知識・理解） ・デザインワークフローを踏まえた基礎的なデジタルデザイン手法を理解し、作品制作ができる。（技能） ・基本的な手順を組み立てて、基礎的なビジュアルを作成できる。（技能）
CG演習B（フォトショップ）	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1	コンピュータを造形表現のツールとしたデジタルデザインを学ぶ。CG演習A（イラストレータ）で習得した内容に加え、デジタルカラー（CMYK/RGB）、カラー マネージメント、画像レタッチ等のPhotoshopの基礎的なオペレーションと同時に、ビットマップ画像処理を涵養する。そのうえで、Illustratorとの連携作業を習得しながら、DTP（デスクトップ・パブリッシング）の応用的なトレーニングで実践的な作品制作を行う。CG演習A（イラストレータ）と合わせ、デジタルデザインの体系的な作品制作能力を高める。	・Adobe Photoshopによる基礎技能を習得し、ビジュアル表現が自由に適用できる。（知識・理解） ・画像データを元に、画像レタッチ等のコマンド機能を自由に操作し、画像設計をイメージ通りに補正できる。（技能） ・デザインワークフローを踏まえた実践的なデジタルデザイン手法を工夫し、作品制作ができる。（技能）	・Adobe Photoshopによる基礎技能を習得し、基礎的なビジュアル表現に適用できる。（知識・理解） ・画像データを元に、画像レタッチ等のコマンド機能を操作し、画像設計をほぼイメージ通りに補正できる。（技能） ・デザインワークフローを踏まえた基礎的なデジタルデザイン手法を工夫し、作品制作ができる。（技能）
DTP演習	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	2	CG演習をベースとしたMacintoshによるDTP（デスクトップ・パブリッシング）の基礎を学ぶ。Photoshop、Illustratorを併用させたデジタルデザインを習得する。色彩構成の基礎を題材に色彩感覚、配色方法、構図、レイアウトの実習などの作品制作を通して、DTPの実践的なデザイン・ワークフローの理解を目指す。アイデアを具現化する面白さとデジタル表現の可能性を体験し、造形力を身につける。	・Adobe Photoshop、Illustratorの操作を解釈し、デザインワークフローを踏まえた高度なデジタルデザイン制作ができる。（知識・理解） ・手順を組み立てて工夫しながら、イメージ通りのビジュアルを自由に作成できる。（技能） ・実践的なDTP作品制作ができる。（技能）	・Adobe Photoshop、Illustratorの操作を解釈し、デザインワークフローを踏まえた基礎的なデジタルデザイン制作ができる。（知識・理解） ・手順を組み立てて工夫しながら、基礎的なビジュアルを作成できる。（技能） ・基本的なDTP作品制作ができる。（技能）
情報メディア演習	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	2	本演習では、情報メディアを色彩の側面から考察し、色彩力を涵養する。グローバルスタンダードなマンセルシステムを基に、美しい色と色の組み合わせ、色と形の効果的な関係、色と形の大きさやプロポーションとの関わりなど、色彩と形体の造形表現を踏まえ、実践的な配色テクニックについてデザインの視座から解説していく。魅力ある色彩で、人を惹きつけるための配色の基本システムと活用法を理解し、造形力を身につける。	・基本となる色彩システムを深く理解し、説明できる。（知識・理解） ・色彩理論、色彩調和を理解した上で、実践的な色彩感覚を適用することができる。（知識・理解） ・色彩生成、配色のさまざまな課題に対応した高い能力を示す制作ができる。（技能）	・基本となる色彩システムを理解し、簡単に説明できる。（知識・理解） ・色彩理論、色彩調和を理解した上で、基礎的な色彩感覚を適用することができる。（知識・理解） ・色彩生成、配色のさまざまな課題に対応した基礎的な能力を示す制作ができる。（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
Webデザイン演習	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	2	CG演習、Webデザイン基礎演習をベースにMacintoshによるWebデザイン制作を学ぶ。AdobePhotoshop・Illustratorを連携させた画像補正とリサイズ、色調修正、Webカラー、デジタルフォント、ビットマップイメージ設計を身につけ、Webデザインのコンテンツ構築及び、レイアウトデザインを習得する。共通テーマに基づいた課題制作を通じて、実践的なサイトデザインのワークフローの理解を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Adobe DeramweaverによるWebサイトコンテンツ構築への展開について詳しく説明できる。（知識・理解） ・ CG演習A・Bを踏まえた、Adobe Photoshop・Illustratorによる素材制作の操作ができる。（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Adobe DeramweaverによるWebサイトコンテンツ構築への展開の基礎的事項について説明できる。（知識・理解） ・ CG演習A・Bを踏まえた、Adobe Photoshop・Illustratorによる基礎的な素材制作の操作ができる。（技能）
アニメーション制作演習	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1	CGアニメーションの原理を学びながら、Adobe Animateによるアニメーション制作手法を学ぶ。また、人の運動知覚を利用して、効果的な動画表現を習得する。Photoshop、Illustratorと連携させながら、さまざまなアニメーション制作手法を通して、実践的なワークフローを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルイメージ、デジタルカラーについて詳しく説明できるようになる。（知識・理解） ・ 人の知覚の仕組みを解釈し、より効果的な動画表現ができるようになる。（思考・判断・表現） ・ Adobe Animateによるモーショングラフィックス（動画）を習得し、さまざまな動画の制作手法を実践できるようになる。（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルイメージ、デジタルカラーの基礎について説明できるようになる。（知識・理解） ・ 人の知覚の仕組みを解釈し、基礎的な動画表現ができるようになる。（思考・判断・表現） ・ Adobe Animateによるモーショングラフィックス（動画）を習得し、基本的な制作手法を実践できるようになる。（技能）
メディア心理学	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	2	人々はどのようにメディアからの情報に影響を受けているのか、特にソーシャルメディアにおけるコミュニケーションの特徴について理解を深め、ソーシャルメディアがもたらす様々な集合行動についても事例をもとに考察することにより、新たなメディア社会における課題の発見やその解決策を追究する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ メディア心理学の学問的な位置付けを説明できる。（知識・理解） ・ ソーシャルメディアについて概要を説明できる。（知識・理解） ・ ソーシャルメディアと心理学の関係について説明できる。（知識・理解） ・ 情報の種類によって人は態度を変えらるということの説明ができる。（知識・理解） ・ ソーシャルメディアの問題点を説明できる。（知識・理解） ・ ソーシャルメディアの問題に対する心理学的な問題を説明できる。（知識・理解） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ メディア心理学の学問的な位置付けを説明することができる。（知識・理解） ・ ソーシャルメディアについて説明することができる。（知識・理解） ・ ソーシャルメディアと心理学の関係について説明することができる。（知識・理解） ・ ソーシャルメディアの問題点を説明することができる。（知識・理解） ・ ソーシャルメディアの問題に対する心理学的な作用を説明し、対応することができる（知識・理解）
消費者の心理	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース 文科 専門教育科目 心理学コース	2	1	消費者心理をとらえることの重要性を学ぶことは、今後、社会に出て、社会に貢献していくために、考え方の基本を形成することになる。どのように社会にかかわろうと、仮に、家庭に入るだけにしても、消費者心理、つまり、事業における相手の心理を掴み、家庭における、家族の気持ちに寄り添っていくことは、社会生活を送る上でも、社会で働く上でも、よりよい生活を送るベースとなる。多くの企業が「顧客視点」を掲げているが、本当に顧客視点に立つということはどういうことか、を具体的に商品開発の過程を通して学ぶ。いくつかの事例について学び、各自の消費行動を振り返り、さらに社会動向から、顧客視点にたった商品サービスを提案してみる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業活動（商品、サービスの提供）は消費者心理と密接に関連していることを知り、消費者の心理に寄り添うことは、よりよい社会を実現するために必須であることを説明できる。（知識・理解） 2. 女性の消費者心理がよい企業を育て、よい社会をつくるということを説明できる。（知識・理解） 3. 企業が消費者心理に基づいて提供しているサービスや商品を洗い出せる（思考・判断・表現・技能） 4. 社会動向の分析を行い、顧客視点に立った商品やサービスを提案、発表することができる。（思考・判断・表現、技能） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業活動（商品、サービスの提供）は消費者心理と密接に関連していることを説明できる（知識・理解） 2. 消費者心理を形成する基本的な概念を説明できる（知識・理解） 3. 社会動向を分析できる（思考・判断・表現・技能） 4. 企業が消費者心理を把握するためにどのような活動を実施しているかを説明できる。（思考・判断・表現・技能）
マーケティングリサーチ演習	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	2	人間の意識や行動を方向付けている基準は、価値の多元化が進む現代においては、その基準も一義的ではなくなってきていることから、その多様性を追究する方法論としてのマーケティング・リサーチのプロセスを明確に理解し、その手法、データの収集・整理や解析方法、報告書作成に関する実践的なスキルやノウハウを習得する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングとは何かを説明できる。（知識・理解） 2. マーケティング・リサーチの役割およびプロセスを説明できる。（知識・理解） 3. マーケティングリサーチを実施するための調査方法について説明できる。（知識・理解） 4. 調査を通してデータの収集・整理や解析方法、報告書作成に関するスキルやノウハウを身につける。（技能） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングとは何をすることかを説明できる。（知識・理解） 2. マーケティング・リサーチが企業や組織、個人にとってどのように活用されているか事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 3. マーケティングリサーチにおける調査票を作成することができる。（知識・理解） 4. 収集したデータを統計分析ソフト、表計算ソフトを使って分析し、報告書を作成できる。（技能）
メディア心理演習	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1	メディアが人間の心理や行動に与える効果や影響を考察する。既存のマスメディアから近年普及したデジタルメディアまで、多様なメディアの特徴について考察し、オーディエンス研究の手法を用いた調査分析を行う。学期をとおして、個人プロジェクトとしてメディア心理研究の調査を立案、実施するため、授業外での作業も必要となる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なコミュニケーション・メディア（アナログ・メディア、マスメディア、デジタルメディアも含む）がもつ特徴を説明できる。（知識・理解） 2. 様々なコミュニケーション・メディアの利用されている場面を考察し、それらが人間の心理や行動に与える影響を説明できる。（知識・理解） 3. オーディエンス研究およびその中で代表的な尺度についての知識を学び、その知識をもとにコミュニケーション・メディアの調査方法を説明できる。（知識・理解） 4. アナログとデジタルのメディアと人との関係の違いを説明できる。（知識・理解） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. マスメディア、コミュニケーション・メディアの種類を説明できる。（知識・理解） 2. アナログ・メディアとデジタル・メディアを比較して、それぞれの特徴を説明できる。（知識・理解） 3. コミュニケーション・メディアが人に与える影響を考察し、オーディエンスの利用状況についての調査を計画することができる。（知識・理解） 4. メディアと人間の関係について調査し、分析することができる。（技能）
心理データ解析演習 (SPSS)	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース 文科 専門教育科目 心理学コース	2	1	心理学では、実験、観察、面接、調査等の方法により人間の行動の法則性を見いだそうとしている。この科目では調査法で得られたデータを統計ソフトのSPSSを用いて解析を行い、レポート（調査報告書）の作成を通して、実証的な研究の進め方を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実証的な研究の進め方について正しく理解し、それを説明できる（知識・理解） 2. 心理調査を行う際の倫理的な配慮の必要性について知り、適切に配慮できる（態度） 3. 尺度水準や質的データと量的データ、独立変数と従属変数などの違いについて説明できる（知識・理解） 4. 心理調査のための目的に沿った質問紙調査を適切に作成できる（技能） 5. SPSSを用いたデータの入力および目的に沿った適切な分析を行うことができる（技能） 6. 得られた結果をもとに適切な表やグラフを作成することができる（技能） 7. 得られた分析結果をもとに論理的な考察を行い、レポートを作成することができる（技能） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実証的な研究の進め方について基本的な説明ができる（知識・理解） 2. 心理調査を行う際の倫理的な配慮ができる（態度） 3. 尺度水準や質的データと量的データ、独立変数と従属変数などの違いについて基本的な説明できる（知識・理解） 4. 心理調査のための質問紙調査を作成できる（技能） 5. SPSSを用いてデータの入力および分析を行うことができる（技能） 6. 得られた結果をもとに表やグラフを作成することができる（技能） 7. 得られた分析結果をもとにレポートを作成することができる（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ポップカルチャー論	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1	ポップカルチャー（ポピュラーカルチャー、大衆文化、マスカルチャー）は、社会において広く一般の人々が楽しんでいる文化のことで、マンガ、アニメ、ファッション、料理など、私たちが日常よく目にするものが含まれている。これに対して芸術や演劇などの高尚な文化はハイカルチャー、マニアのための文化はサブカルチャーと呼ばれ、異なるジャンルの文化として区別されている。この科目では、様々なポップカルチャーの事例を見ながら、それらの特徴・魅力を分析する。また、国境を越えて広がるポップカルチャー（越境する文化）について議論しながら、グローバル時代の文化について考察する。	1. 文化とは何か、文化にはどのような種類があるかを説明できる。（知識・理解） 2. ポップカルチャー、サブカルチャー、ハイカルチャーの違いを説明できる。（知識・理解） 3. ポップカルチャーとして分類されている日本文化製品の特徴を知り、海外での人気の要因を分析することができる。（知識・理解、技能） 4. 文化のグローバリゼーション、ローカリゼーションのメカニズムを説明できる。（知識・理解） 5. 日本の政治的、外交的資源としてのポップカルチャーの役割を説明できる。（知識・理解）	1. ポップカルチャーとは何かを説明できる。（知識・理解） 2. 文化の種類について説明でき、それぞれの特徴を分析できる。（知識・理解、技能） 3. 海外で受容されている代表的な日本文化製品の特徴と人気の要因を説明できる。（知識・理解） 4. 越境する文化製品を例に、グローバリゼーションとローカリゼーションを説明できる。（知識・理解）
メディアカルチャー演習	生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1	マスメディア、デジタルメディア、ソーシャルメディア、メディアコンテンツなど、メディアという言葉は他の言葉と組み合わせることによって新しいメディアの概念をつくりだしているが、いずれも「情報を伝達する」という共通した社会的役割を果たしている。この科目では、様々な「メディア」を調査研究のツールとして、社会事象を社会学的に調査・分析する。デジタル・メディアを活用した定性的調査方法により、現代社会の諸事象をエスノグラフィによって調査・分析する。	1. マスメディア、デジタルメディア、ソーシャルメディア、メディアコンテンツなどの言葉の定義を説明できる。（知識・理解） 2. 社会調査法の基本を理解し、定性的研究と定量的研究の調査法の違いを説明できる。（知識・理解） 3. 社会調査法で活用できるデジタルメディアと活用法を説明できる。 4. フィールドワークおよびエスノグラフィの方法を知り、その調査法を実施できる。（技能）	1. マスメディア、デジタルメディア、ソーシャルメディアなどの用語について説明できる。（知識・理解） 2. 社会科学における調査法について、その特徴を比較しながら説明できる。（知識・理解） 3. 定性的調査法と定量的調査法の違いを知り、使い分けることができるようになる。（技能） 4. 社会調査に使用されるデジタルメディアを説明できる。（知識・理解） 5. フィールドワーク、エスノグラフィによる調査を実施できる。（技能）
生活デザイン論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	1	人間に最も身近な生活環境としての生活道具、服飾、雑貨、生活空間およびこれらの周辺領域のデザインについて、生活者の視点から、デザインの定義、成立過程、様式、エレメント等について理解する。大量生産・大量消費のデザインから、環境に配慮し、あらゆる人々が安全で快適に使うことのできる、持続可能なデザインとは何かについて、具体的な事例を挙げて、フィールドワーク等の調査を行い、調査の結果はスケッチ課題を通じて履修者共有を行い考察する。そのうえで、これからの社会において求められる生活デザインを選択したり、創造することができるための基本的な知識と技能を身につける。	・人間生活と身の回りのモノが進化して今日に至った過程や社会と人の意識を学習した上で、社会における様々なデザインを生生活者の立場から説明できる。（知識・理解） ・持続可能なデザインへの理解を深め、これからの社会におけるデザインのありかたを具体的に伝えたり、提案することができる。（技能） ・具体的な事例をもとに、開発プロセスや使用環境を体験することによって、職能領域の流れやユーザーエクスペリエンスを評価・説明できる。（思考・判断・表現） ・フィールドワークやインタビュー等の調査を自分で組み立てて調査・分析を行い、一連の結果を客観的に捉え、スケッチ課題に的確に記述・発表することができる。（思考・判断・表現）	・社会における様々なデザインを説明できる。（知識・理解） ・これからの社会におけるデザインのありかたを調べることができる。（技能） ・具体的な事例をもとに、使用環境を体験することによって、デザインの特徴や製作意図を示すことができる。（思考・判断・表現） ・フィールドワークやインタビュー等の調査を実施し、結果をスケッチ課題にまとめることができる。（思考・判断・表現）
プロダクトデザイン論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	プロダクトデザインとは、家電製品、衣服、インテリア雑貨、家具、パッケージ、玩具など、生活に必要な道具、機械、製品のデザイン全般を意味し、工業製品をはじめ、広義には手工芸も含まれる。社会とプロダクトデザインの関係、デザインマネジメント、デザインプロセス、ユーザ調査・コンセプト・デザイン評価のための手法、視覚化のための手法などを学び、プロダクトデザインに関する理論と知識を習得する。	・生活者の立場からデザインを捉え、デザインが生活に与える影響や責任、文化的・社会的意義が的確に説明できる。（知識・理解） ・ソリューション・デザイン、ソーシャル・デザイン、サステナブル、ダイバーシティ等、プロダクトデザインの分野で使用される用語を正しく理解し、デザイン思考の方法論について説明できる。（知識・理解） ・感性工学的・人間工学的なデザインの考え方の基本を習得し、デザインされたプロダクトを様々な視点から検討できる。（技能）	・生活者の立場からデザインを捉え、デザインが生活に与える影響や責任、文化的・社会的意義が説明できる。（知識・理解） ・感性工学的・人間工学的なデザインの考え方の基本を習得し、デザインされたプロダクトを検討できる。（技能）
カラーコーディネート演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	1	色彩の重要性について考え、色彩の役割や機能を認識し、配色の効果的な技法を習得する。具体的には、生活と色彩、光と色彩、目と大脳の関係、色がみえるしくみ、色彩の心理、マンセル体系、NCS、PCCSをはじめとする表色体系、PANTONEやDIC等の実務に不可欠なカラーガイド、代表的な色彩調和論、デジタルカラーの理論、色彩調査の実施、プロダクトの色彩、カラーユニバーサル理解と事例研究などを学ぶ。配色カードを活用した演習を交えて行うことで、色彩や配色に関する知識と表現に活かす創造力を養う。	・色彩学の知識（色彩工学・色彩心理・応用色彩学）、および、美しく調和のとれた配色デザインとは何か、ユニバーサルデザインについて充分に理解した上で、得られた知識を学修課題に活用・応用できる。（知識・理解） ・演習課題を通じ、優れた色彩の選択ができることに加え、色彩の理論をふまえた表現ができる。（技能） ・優れた作品例を鑑賞し、豊かな色彩を理解するとともに、身の回りの色彩環境を様々な視点から捉えることができる。（思考・判断・表現）	・色彩学の基本的な知識を学び、美しく調和のとれた配色デザインとは何かを説明できる。（知識・理解） ・演習課題を通じ、色彩の選択や表現ができる。（技能） ・優れた作品例を鑑賞し、豊かな色彩の価値が分かるとともに、身の回りの色彩環境を正しく捉えることができる。（思考・判断・表現）
イラストレーション(実習)	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	イラストレーションとは、情報や概念の視覚化、図解などのコミュニケーションを主目的とした表現である。イラストを作成するために重要な絵画的・造形的な基礎技術である、観察／描写／構成／色彩／画材／空間／企画・演出の基本を習得し、人物画やオリジナルカット、製品の形やファッション画、家具、キャラクター、広告、パッケージ、ポスターなどの多種多様なイラストを正確にかつ表現力豊かに制作するための基本的な技術を学ぶ。	・イラストレーションの基本を学び、造形に対する知識を習得できる。（知識・理解） ・様々なテクニックを学ぶことで、イラストレーションに必要な確かな描写力と豊かな表現力を習得できる。（技能） ・イラスト制作を通じて表現に対する感性を養い、イラストレーションの目的である「テーマを伝えること」を理解し、描く過程での試行錯誤を通じて、イラストレーションで明確なメッセージを伝えることができる。（思考・判断・表現）	・イラストレーションの基本を学び、造形に対する知識を習得できる。（知識・理解） ・基本的なテクニックを学ぶことで、イラストレーションに必要な描写力と表現力を習得できる。（技能） ・イラスト制作を通じて表現に対する感性を養い、イラストレーションの目的である「テーマを伝えること」を理解し、イラストレーションでメッセージを伝えることができる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
彫金実習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	銀を主な素材とし金属工芸技術を学びながら、リング・ペンダント・ブローチ等のジュエリーを制作する。金属を切ったり曲げたり、叩いたり、バーナーによるロー付け、ヤスリがけ、研磨と多種類の技術を習得する。始めは工具の扱いに慣れるための作品制作を行い、課題ごとのデザイン案は授業までに用意し検討をする。ジュエリーにとってデザインは重要な要素であり、ものを創るということは周りに対する注意深い眼を持つことでもある。考察力、表現力、造形力を培いながらオリジナリティある作品に取り組む。	・「彫金」という金属工芸の伝統技法の習得を通じ、素材や歴史的背景について十分な説明ができる。（知識・理解） ・制作を通して様々な工具を的確に使い、作品を作り上げることで、デザイン・造形力・感性を磨く力を修得できる。（技能） ・現代における工芸、金属造形のあり方を考え、独自の表現と新たな方向性を探り、デザインに反映できる能力と、具現化できる表現力を発揮し、オリジナリティある作品を完成させることができる。（思考・判断・表現）	・「彫金」という金属工芸の伝統技法の習得を通じ、素材や歴史的背景について説明できる。（知識・理解） ・制作を通して様々な工具を使い、作品を作り上げることで、デザイン・造形力・感性を養うことができる。（技能） ・現代における工芸、金属造形のあり方を考え、デザインに反映させることができる。（思考・判断・表現）
生活プロダクトデザイン演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	4	1	わたしたちの日常に密接な生活デザイン、およびプロダクトデザインについて理解する。生活者の視点から、デザインの定義、成立過程、様式、エレメント等について学んだ上で、製品のユーザビリティ評価、市場調査やフィールドワーク、展覧会・展示会やデザインアワード見学、模型制作等の演習を通して、問題発見力、具体的な構成力、提案力を養い、プロダクトデザインを主体的に選択したり、専門的な立場から製品企画や消費者への提案ができるような知識と技能を習得する。	・生活にかかわるプロダクトデザインに関連する専門的な知識について理解・説明できる。（知識・理解） ・演習課題に取り組み、優れた想像力、造形力、表現力を磨き、独創的な創造的思考力と具現化能力を修得した上で、作品を完成させることができる。（技能） ・人間工学、安全性、市場性を理解した上で、企画・デザインしたり、具体的な形に表現することに加え、発展的な課題に取り組み、レポートや作品等を通じて、記述・発表できる。（思考・判断・表現）	・生活にかかわるプロダクトデザインについて理解・説明できる。（知識・理解） ・演習課題に取り組み、想像力、造形力、表現力を養い、作品を完成させることができる。（技能） ・人間工学、安全性、市場性を理解した上で、企画・デザインしたり、具体的な形に表現できる。（思考・判断・表現）
デッサン（実習）	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	1	基礎描写力の修得は、自らの観察力、構成力、造形力の向上にきわめて役立つと共に自らの創作の基盤となる。この科目では、もの創りに必要なデッサン力の習得を目指し、形の捉え方についての基礎知識と技法についての実技を通じて学習する。形の見た、とり方、構図について理解する「基礎演習」、正確に形を描く力を養う「静物デッサン」、短時間で形的に捉える眼を養う「鉛筆クロッキー」、人体のプロポーションを把握する「モデル演習」などの基礎を積み重ね、パステルや色鉛筆での「イラスト制作」に取り組み表現の楽しさを体験する。	・クリエイターとしての視点に立ち、造形に対する深い知識を習得し、的確に説明できる。（知識・理解） ・基礎演習を積み重ね、テクニックを学ぶことで、あらゆるもの創りに必要なデッサン力を習得し、自らの表現活動に活かせる描写力と洞察力を身につけることができる。（技能） ・イラスト制作を通じて表現の楽しさや感性を磨き、造形作品に対する洞察を深め、日頃から造形作品に親しみ、鑑賞できる態度を養うことができる。（思考・判断・表現）	・造形に対する知識を習得できる。（知識・理解） ・基礎演習に取り組み、テクニックを学ぶことで、あらゆるもの創りに必要なデッサン力が習得できる。（技能） ・イラスト制作を通じて表現の楽しさや感性を磨き、造形作品を身近に鑑賞する態度を養うことができる。（思考・判断・表現）
ファッションビジネス論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	ファッションビジネスは、経済動向の変化や新興国の台頭により、グローバル化が進み大きく変化している。日本のアパレルを中心とするファッションビジネスの変遷や現在のアパレル・ファッション業界の構造に加えて、アパレル・ファッションビジネス特有のマーケティング、マーチャライジング、流通について理解する。さらに「ファッションビジネス能力検定」などファッションビジネス分野に設置されている資格とその役割について理解する。	・アパレル・ファッション業界の構造や基本的な知識を修得し、アパレル業界の現状を具体的に説明できる。（知識・理解） ・アパレル・ファッション業界特有の生産・流通・消費構造を修得し、新たな流通機構やブランドを創造できる。（技能） ・アパレル・ファッション分野特有の構造や機能について具体的に説明できる。（思考・判断・表現） ・アパレル・ファッション業界に関心を持って活発にコミュニケーションすることができる。（関心・意欲・態度）	・アパレル・ファッション業界の構造や基本的な最小限の知識を修得し、アパレル業界の現状を説明できる。（知識・理解） ・アパレル・ファッション業界特有の生産・流通・消費構造を修得し、新たな流通機構やブランドの方向性を示すことができる。（技能） ・アパレル・ファッション分野特有の構造や機能について説明できる。（思考・判断・表現） ・アパレル・ファッション業界に関心を持ってコミュニケーションすることができる。（関心・意欲・態度）
ファッションデザイン論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	1	ファッションは人びとの行動や考え方を規定する社会現象であるという観点から、ファッションデザインの変遷を学ぶ。人はなぜ服を着るのか？という衣服の起源に始まり、記号性・流行の理論を学んだ上で、現代ファッション史を概観する。現代服の原点であるシャネル、ディオールの50年代ファッション、60年代のミニ、モッズやアイビー、70年代のフォークロアやジーンズ、80年代以降の三宅・川久保・山本らの革新性、90年代以降のファッションのカジュアル化、2000年代以降のファスト化、SNSによる情報の変化をめぐる今日的な課題について、視覚資料や映像を多用しながら解説する。	・近現代のファッション史、ファッションデザインの流れ、ディテール、色彩、トレンド、ファッションビジネスのしくみを学び、ファッションデザインを具体的に説明できる。（知識・理解） ・設定されたテーマに加え、自らで考案したアイデアをもとに、ファッションデザインの企画やプレゼンテーションを行うことができ、説得力のある提案ができる。（技能） ・ファッションデザインの変遷に基づき、現在のファッションデザインの問題点、ひいては現代社会が抱えている消費・生産・流通等の諸課題について洞察を行い、具体的に提言することができる。（思考・判断・表現）	・近現代のファッション史、ファッションデザインの流れ、ディテール、色彩、トレンド、ファッションビジネスのしくみについて説明できる。（知識・理解） ・設定されたテーマをもとに、ファッションデザインの企画やプレゼンテーションを行うことができる。（技能） ・ファッションデザインの変遷に基づき、現在のファッションデザインの問題点をまとめることができる。（思考・判断・表現）
ファッションデザイン演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	4	1	ファッションは、美しさや快適性を求める人間の欲求から生まれてくるものです。ここでは感性豊かなクリエイターになるための資質を身につけるための演習を総合的に行う。自分自身の装いの評価やイメージマップの作成、繊維素材の特性や用途、シルエットの分類やカラーコーディネート、ディテールやテキスタイルに配慮したデザイン画について理解する。さらに、表現力の向上、経済性・社会性・環境を配慮した衣服の選択や提案力を養い、消費者への提案や助言できる能力を修得する。	・ファッションに関する素材やシルエット、TPOにに応じた装いなどについて具体的に示すことができる。（知識・理解） ・服飾デザインの基本的な縫製技術やコミュニケーション能力を身につけることができる。（技能） ・表現力、経済性、社会性、環境に配慮した適切な衣服や着装を具体的に説明することができる。（思考・判断・表現） ・消費者への提案や適切な助言を具体的に示すことができる。（関心・意欲・態度）	・ファッションに関する素材やシルエット、TPOにに応じた装いなどについて示すことができる。（知識・理解） ・服飾デザインの基本的な最小限の縫製技術やコミュニケーション能力を身につけることができる。（技能） ・表現力、経済性、社会性、環境に配慮した衣服や着装を説明することができる。（思考・判断・表現） ・消費者への提案や助言を示すことができる。（関心・意欲・態度）
アパレル企画演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	アパレルメーカーや商社における企画部門の業務内容や現状を学ぶことから、その役割を理解する。仮想のブランドを設定し、カタログ等の企画・製作、プロモーションを模擬的に実施することから企画力や発信力を養う。さらに、市場動向や消費者動向の調査手法、年間のプロモーション計画の立案などのグループワークを通して、アパレル企画に関する知識を修得し、コミュニケーションの進め方について理解する。	・アパレルにおける企画の具体的な役割を理解できるようになる。（知識・理解） ・グループワークを積極的に行い、コミュニケーション能力を高めることができるようになる。（技能） ・アパレル業界の動向や消費者動向に強い関心を持って消費者ニーズを具体的に説明できる。（思考・判断・表現） ・アパレルファッション業界に関心を持って積極的に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）	・アパレルにおける企画の役割を理解できるようになる。（知識・理解） ・グループワークを行い、コミュニケーション能力を高めることができるようになる。（技能） ・アパレル業界の動向や消費者動向に関心を持って消費者ニーズを説明できる。（思考・判断・表現） ・アパレルファッション業界に関心を持って取り組むことができる。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
アパレル制作実習A(ドレス)	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	ファッションを楽しむ装うことは、新しい女性の生き方までも生み出してきた。その一方で、日本の衣服の95%以上が既製服となり、消耗品化する傾向にある。ドレス制作を通じて、体型とデザイン、パターン（型紙）制作と補正、素材とシルエットの関係、服地の取扱い方、制作方法を理解する。	・衣服制作の基本的な知識や制作方法についての確に説明できる。（知識・理解） ・ドレスの基本的な製作技術を的確に修得できるようになる。（技能） ・TPO やライフステージに応じたファッションを的確に選び、コーディネートできるようになる。（思考・判断・表現） ・楽しみながら装うことの大切さを多角的に表現できるようになる。（関心・意欲・態度）	・衣服制作の基本的な知識や制作方法について説明できる。（知識・理解） ・ドレスの最小限の製作技術を修得できるようになる。（技能） ・TPO やライフステージに応じたファッションを選び、コーディネートできるようになる。（思考・判断・表現） ・楽しみながら装うことの大切さを表現できるようになる。（関心・意欲・態度）
和装デザイン実習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	和装は日本の伝統的な衣服として、現代においても着用する場面が多く、重要な意味を持っている。和装に用いられる反物やその技法、模様配置、名称、種類などを理解し、和装の基本となる女物単長着（浴衣）を制作する。さらに着付けや和装品の取扱い方の実習を通して、合理的な和装の機能について理解する。	・浴衣の基本的な構造や機能についての確に説明できる。（知識・理解） ・浴衣の製作や着付けを的確に行うことができる。（技能） ・和装についての基本的な知識を理解し、TPOに合った確な着装を示すことができる。（思考・判断・表現） ・和装に関心を持って和装の優れた機能を具体的に示し、伝えることができる。（関心・意欲・態度）	・浴衣の基本的な構造や機能について説明できる。（知識・理解） ・浴衣の製作や着付けを行うことができる。（技能） ・和装についての基本的な知識を理解し、TPOに合った最小限の着装を示すことができる。（思考・判断・表現） ・和装に関心を持って和装の優れた機能を示し、伝えることができる。（関心・意欲・態度）
快適住環境論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	1	建築環境における快適な室内環境を創出するための要因である「熱、空気、光及び音」に関する基礎的な事項をテキストや関連資料を用いて学習し、理解する。また、随時的小テストや課題レポートの提出を実施し、授業内容に対する理解を深めてもらう。	・住宅設計や住まいの環境について、室内環境の視点からどのようなことに配慮しなければならないかを理解し、実践的に説明できるようになる。（知識・理解） ・熱、光、空気、音及び水等の物理的環境要因を理解し、実践的に説明できるようになる。（知識・理解） ・快適で健康的な住生活ができる環境配慮型住宅を実現する技能を実践的な学習によって身につけ、説得力のある提案ができるようになる。（技能）	・住宅設計や住まいの環境について、室内環境の視点からどのようなことに配慮しなければならないかを最低限理解し、基本的なことは説明できるようになる。（知識・理解） ・熱、光、空気、音及び水等の物理的環境要因を最低限理解し、基本的なことは説明できるようになる。（知識・理解） ・快適で健康的な住生活ができる環境配慮型住宅を実現する技能を身につけ、提案できるようになる。（技能）
インテリア構成論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	床、たたみ、間仕切り、ふすま、障子、柱・梁、天井、屋根、外壁、開口部、出入り口、屋敷構えなど、住宅やインテリアを構成する諸要素一つひとつについて、椅子や照明器具などのインテリア家具に触れたり、20世紀を代表する建築家の作品を見ながら学習し、理解する。	・インテリアを構成する諸要素について理解し、説明できるようになる。（知識・理解） ・諸要素を組み合わせるインテリアデザインの基本を、実践的な学習によって身につけ、説得力のある提案ができるようになる。（技能）	・インテリアを構成する諸要素について最低限理解し、基本的なことは説明できるようになる。（知識・理解） ・諸要素を組み合わせるインテリアデザインの基本を学習によって身につけ、提案ができるようになる。（技能）
インテリア設計演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	4	1	インテリアの特質を学習しながら自分のアイデアを盛り込んだ設計をするには、大きく手描き図面や模型作成による方法と、コンピュータを利用して製図、表現を行う方法とがある。この演習では前者の方法で、自らの手作業を通じて、ものを創り上げる実感を実感しながら、製図、表現の基礎を学ぶと共に、インテリアに対する理解を深める。前期は身近な自分の部屋を対象に基礎的な学習、作業を行う。後期は住宅に関するさまざまなイメージをふくらませながら、限られた空間を自分らしくインテリア演出をしながら設計する課題に挑戦する。	・インテリア設計の表現方法を、実践的な学習によって身につけ、説得力のある作品として表現することができるようになる。（技能） ・インテリア設計の意義を理解し、表現に値する内容を提案し、発表することができるようになる。（知識・理解）	・インテリア設計の表現方法を、学習によって身につけ、作品として表現することができるようになる。（技能） ・インテリア設計の意義を理解し、表現に値する最低限の内容を提案し、発表することができるようになる。（知識・理解）
インテリア製図演習I	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	1	製図は自分の考えの表現手段であると同時に、伝達手段でもある。ひとりよがりな表現では他者に内容を正しく伝えることは不可能であり、多くの人に共有されている製図のルールに従って表現することが要求される。また、表現されるものも、単なる夢や空想のレベルではなく、実現可能なレベルの作品であることが要求される。こうした要求に応じられるように、製図台や専門的な製図用具を用いて実務に対応した製図の基礎を学習し、理解する。	・本格的な製図板、製図用具の正しい使い方、正しい製図法を、実践的な学習によって身につけ、製図を行うことができるようになる。（技能） ・将来、製図の仕事の分野で信頼される人になるのに必要な製図上の基本的な知識を理解し、説明できるようになる。（知識・理解）	・本格的な製図板、製図用具の正しい使い方、正しい製図法を最低限身につけ、基礎的な製図を行うことができるようになる。（技能） ・将来、製図の仕事の分野で信頼される人になるのに必要な製図上の最低限の知識を理解し、基本的なことについては説明できるようになる。（知識・理解）
インテリア製図演習II	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	1年次のインテリア製図演習Iでは製図のルールに従った表現能力を身につけたが、この演習では製図のルールを成り立たせている図法・図学（つまり、立体的なものを図面という平面で表現するための法則）に戻って、製図の基礎を固め、さまざまな図法を学習し、理解する。具体的には以下の内容を扱う 図法の基礎：正投象、第3角法、平面図、立面図、断面図 さまざまな図法：斜投象、軸測投象、透視投象 インテリア製図演習Iで使用した製図用具を引き続き使用し、製図板も同様に貸与する。	・図面表現の基礎である図法の重要さ、面白さを理解し、具体的に説明できるようになる。（知識・理解） ・3次元で空間や実体をイメージする能力を、実践的な学習によって身につけ、製図として表現することができるようになる。（技能）	・図面表現の基礎である図法の重要さ、面白さを最低限理解し、基本的なことについては説明することができるようになる。（知識・理解） ・3次元で空間や実体をイメージする能力を学習によって身につけ、基礎的な製図として表現することができるようになる。（技能）
インテリアCAD応用演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	1年次のインテリアCAD基礎演習IではCADソフトを使いこなすことを最優先に学習したが、この演習ではCADソフトの図面と実際の立体的な部屋、建物との関係を頭に入れて、描いているものを理解した上で作図できることを目標とする。さらに3Dモデリングソフトを使い、図面を立体化し彩色することで、自ら考えた住まいのインテリアデザインを美しく表現することへつなげていく。	・2次元cadソフトだけでなく、3次元モデリングソフトを実践的な学習によって使いこなして、説得力のある作品を作ることができるようになる。（技能） ・CAD図面と3次元の空間や実体との関係を理解し、具体的に説明できるようになる。（知識・理解）	・2次元cadソフトだけでなく、3次元モデリングソフトを学習し、基本的な操作によって作品を作ることができるようになる。（技能） ・CAD図面と3次元の空間や実体との関係を最低限理解し、基本的なことは説明できるようになる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
アパレル制作実習B(帽子)	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	1	帽子はファッションを彩るアイテムとして、また頭部を保護するものとして重要な役割を果たしている。帽子は、製作に使用する素材や用具などによって様々な作り方がある。パターン（型紙）を作った布を縫製していく帽子と、毛糸を棒針編で編むニットの帽子作りを通じ、帽子制作の基本的な技術や知識を理解するとともにデザイン力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・構成や素材の性質、取り扱い方についての確に説明できる。（知識・理解） ・帽子の基本的な製作を的確に行うことができる。（技能） ・デザインの面白さを理解し、制作に応用することができる。（思考・判断・表現） ・制作の楽しさを多角的に表現できる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成や素材の性質、取り扱い方について説明できる。（知識・理解） ・帽子の基本的な製作を行うことができる。（技能） ・デザインの面白さを理解することができる。（思考・判断・表現） ・制作の楽しさを表現できる。（関心・意欲・態度）
染色工芸実習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	1	工芸品として染色されてきた実用品には人の心を和ませる働きがある。繊維や布の特性、伝統的な染織工芸の技法や道具、染色剤の取扱い方、基本的な染色技法について実習を行い作品を制作することから理解を深める。さらにオリジナル作品の制作に取り組み、実用性を活かしたデザインの面白さを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・素材である繊維や布の特徴に応じた染色方法を具体的に説明できる。（知識・理解） ・基本的な染色技法を的確に行うことができる。（技能） ・伝統的染色品の文様をオリジナル作品の制作に取り入れて、表現することができる。（思考・判断・表現） ・伝統的な染織工芸品に積極的に関心を持つことができる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材である繊維や布の特徴に応じた染色方法を説明できるようになる。（知識・理解） ・基本的な染色技法を行うことができる。（技能） ・伝統的染色品の文様をオリジナル作品の制作に最小限取り入れて、表現することができる。（思考・判断・表現） ・伝統的な染織工芸品に関心を持つことができる。（関心・意欲・態度）
インテリアCAD実習基礎	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	1	CAD（コンピューターを使った図面作成）ソフトの操作を習得しながら、住まいのインテリアデザインについて学ぶことで、自らの表現力を広げることを目指す。前半は、実務でよく利用されているCADソフトの基本操作を、さまざまな作図をしながら習得し、理解する。後半は、より深くCADソフトの操作方法を学びながら、部屋の平面図、断面図を作成し、住宅やインテリアの図面表現を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・CADソフトを、実践的な学習によって使いこなす、説得力のある作品をつくるようになる。（知識・理解） ・実践的な学習によってモノの寸法を認識し、スケール感を身につけ、作品内の具体的な寸法として表現することができるようになる。（技能） ・立体や空間を2次元で表現する図面のルールを理解し、具体的に説明できるようになる。（知識・理解） 	<ul style="list-style-type: none"> ・CADソフトを学習し、基本的な操作によって作品をつくるようになる。（技能） ・学習によってモノの寸法を認識し、スケール感を身につけ、作品内の具体的な寸法として最低限の表現をすることができるようになる。（技能） ・立体や空間を2次元で表現する図面のルールを最低限理解し、基本的なことについては説明できるようになる。（知識・理解）
食物基礎科学	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	この科目では食品学、栄養学の学習に必要な化学的、生物学的基礎的事項について理解する。高校化学の「化学結合」や有機化学について簡単に復習した後、五大栄養素の種類、構造、働きや代謝について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・食品成分の化学的な事項を十分理解することで、これから学ぶ栄養学、食品学等の基礎を説明できる。（知識・理解） ・糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルの性質と機能を十分に説明できる。（思考・判断・表現） ・酵素の働きを理解し、主要な代謝経路の意義を説明できる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品成分の化学的な基礎事項を理解することで、これから学ぶ栄養学、食品学等の基礎を説明できる。（知識・理解） ・糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルの性質と機能の基本的な事項を説明できる。（思考・判断・表現） ・酵素の働きや主要な代謝経路の基本的な事項を説明できる。（思考・判断・表現）
栄養学	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	栄養学は栄養と栄養素についての学問である。栄養とは生物が外界から物質を体内に取り入れて、生命維持に利用する営みのことであり、栄養素とはこの栄養に必要な物質のことである。したがって、この科目では人が健康的に生きるには、「何を、どの位、どのように食べたらよいか」を理解する。本講義を通して生活習慣病にかからないようにするための栄養学の知識と技術を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の生理機能、消化・吸収・代謝機構について十分に理解した上で、説明することができる。（知識・理解） ・健康を保持・増進するための食生活の役割について十分に理解し、自らの実生活で実践することができる。（技能） ・フードスペシャリスト試験の出題ポイントを十分に理解して、試験の準備ができる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の生理機能、消化・吸収・代謝機構について基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・健康を保持・増進するための食生活の基本的な役割について理解し、自らの実生活で試みることができる。（技能） ・フードスペシャリスト試験の基礎的な出題ポイントを理解して、試験を受けることができる。（関心・意欲・態度）
食品衛生学	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	我が国における食品の加工製造、保存技術、流通技術は向上しており、安全な食品を食卓に届けられるような仕組みができてきている。しかし、食品の大量生産、製造技術の高度化に伴い、食中毒も発生している。食品衛生学の講義において、食品衛生の現状を知り、食中毒の特徴や食中毒を引き起こす細菌・寄生虫・自然毒などを学び、食品の衛生的な取り扱いを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒の特徴について総合的に理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） ・食中毒の原因となる細菌や寄生虫、自然毒などについて総合的に理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） ・食品の衛生的な取り扱いについて総合的な観点から理解し、食品ごとに事例を挙げて説明できる。（知識・理解） ・リスクを回避するための方法や行政の仕組みを理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 	<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒の特徴について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・食中毒の原因となる細菌や寄生虫、自然毒などについて理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・食品の衛生的な取り扱いについて理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・リスクを回避するための方法や行政の仕組みを理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解）
食品学	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	食品学とは食品の種類や成分、性状などを広く学ぶ科目である。食品学を学ぶことにより、食品と栄養・健康、調理・加工・保存中に起こる食品成分の化学変化、栄養性変化との関係を知る。食品学の講義において、食品や水について食品学的な理解を深めるとともに、調理過程における変化を理解する。さらに、食品の嗜好性や機能性などについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・水の性質を理解し、水分活性と保蔵性について、代表的な食品を例にして説明できる。（知識・理解） ・五大栄養素の性質および栄養性について理解し、代表的な食品を例にして説明できる。（知識・理解） ・調理過程における食品成分の化学変化について総合的に理解し、代表的な食品を例にして説明できる。（知識・理解） ・食品の嗜好性について総合的に理解し、代表的な食品を例にして説明できる。（知識・理解） ・食品の機能性について総合的に理解し、代表的な食品を例にして説明できる。（知識・理解） 	<ul style="list-style-type: none"> ・水の性質を理解し、水分活性と保蔵性の関係について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） ・五大栄養素の性質および栄養性について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・調理過程における食品成分の化学変化について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・食品の嗜好性や機能性について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
食料経済論	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	食料をめぐるそれぞれの経済主体の行動がもたらす関連性を把握するのが食料経済である。食料経済の発展段階からみて、現在は、食料の生産から消費までの過程に、食品加工業・流通業・外食産業が介在する第4段階目といわれ、この全体の流れをフードシステムという。フードシステムにおける「食品の消費と流通」の実態と、またこれらの実態を理解するための基本的知識と考え方について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 今日のわが国の食料消費や食生活の変化と食品の流通体系についての現状を説明することができる。（知識・理解） 学習を通じて、食生活と食産業の健全な発展に役立つフードスペシャリストとしての経済学における応用的知識を使用することができる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 今日のわが国の食料消費や食生活の変化と食品の流通体系についての現状を理解するための基礎的知識を説明できる。（知識・理解） 学習を通じて、食生活と食産業の健全な発展に役立つフードスペシャリストとしての経済学における基礎的知識を使用することができる。（思考・判断・表現）
調理学	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	消費者・生活者が食生活について望ましい知識を持ち、また、その知識や生活技術を生かして実践することが望まれる。食品がどのような特性を持ち、調理過程において食品の組織や成分がどのように変化し、人間の身体や心に及ぼす影響について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 調理することの意義および心身が健康で豊かになるための食について総合的に説明できる。（関心・意欲・態度） 各食品が調理過程を経て、食物になるまでの工程で起こるさまざまな現象について具体的に述べることができる。（知識・理解） 食物の成分・形状や性状の変化を説明できる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 調理することの意義および心身が健康で豊かになるための食について説明できる。（関心・意欲・態度） 各食品が調理過程を経て、食物になるまでの工程で起こる基本的な現象について述べることができる。（知識・理解） 食物の成分・形状や性状の基本的な変化を説明できる。（思考・判断・表現）
女性と健康	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	女性は女性ホルモンによって制御されたライフステージを持つことが特徴である。女性と健康の講義において、女性として自分の身体を理解した上で、女性のライフサイクルにおける健康問題に関する基本的な知識について理解し、健康の維持・増進のための様々な手法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 女性のライフサイクルを理解し、その特徴を事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 女性におけるホルモンの影響を理解し、その特徴を事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 女性のライフサイクルにおける健康問題について理解し、その特徴を事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 健康問題を解決する様々な手法を理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 	<ul style="list-style-type: none"> 女性のライフサイクルについて理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 女性におけるホルモンの影響について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 女性のライフサイクルにおける健康問題について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 健康問題を解決する様々な手法について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 日頃から健康維持・増進に対する取り組みを実践できる。（関心・意欲・態度）
ライフステージ栄養演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	ヒトはこの世に生を受けてから成長し、自らが支援者の一人となって、やがて老い、人生を全うする。この一連のライフサイクルを健康で幸せに過ごすためには、各ライフステージにおいて生活習慣を整えることが求められる。ライフステージ栄養演習において、各ライフステージでの体の変化を知り、各ライフステージに特徴的な健康問題を理解する。さらに、それらの健康問題を解決するための様々な手法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期から高齢期までの各ライフステージの特徴を理解し、詳細に説明できる。（知識・理解） 妊娠・出産について学び、この時期に求められる生活習慣を理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 各ライフステージにおける健康問題を理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 各ライフステージにおける健康問題を解決するための手法を理解し、実践できる。（知識・理解） 栄養計算ソフトが使用できるようになり、得られた結果を用いた説明ができる。（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期から高齢期までの各ライフステージの特徴を理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 妊娠・出産について学び、この時期に求められる生活習慣について基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 各ライフステージにおける健康問題を理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 各ライフステージにおける健康問題を解決するための手法を理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 栄養計算ソフトが使用できる。（技能）
栄養学実験	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	1	2	栄養学では食物の消化・吸収と排泄、栄養素の代謝と機能、エネルギー代謝、食事と健康の関係、生活習慣病、食物アレルギーなどを扱っている。この科目と関連させて、本科目では生化学、栄養学の基本的な実験操作技術を学び、栄養素の物質としての性質、これらの代謝、さらに消化酵素について実験をおこなう。また、血液や尿の検査や骨密度の測定をおこない健康状態の評価の方法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 実験操作方法を十分に説明できる。（技能） 栄養素の化学的性質や代謝、消化酵素について理解を深めることができ、説明できる。（知識・理解） 実験結果を考察し、十分科学的なレポートを作成することができるようになる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 実験操作方法の基礎的事項を説明できる。（技能） 栄養素の化学的性質や代謝、消化酵素について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 実験結果を考察し、ある程度、科学的なレポートを作成することができるようになる。（思考・判断・表現）
生活基礎演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	日常生活や実験実習や講義科目で用いられる単位、数値の求め方、求めた数値の価値、数値の処理に対する基本的な事柄について演習を通して実践的に理解する。さらに、科学的な思考を基に得られた結果を分析し、グループワークやレポートを作成することでその特徴や性質を適切に伝える方法を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> 単位の種類や互換性を的確に説明できる。（知識・理解） 実験時の基本的な操作方法や適切な取り扱い方を身につけることができる。（技能） 身の回りのものの性質や特徴に積極的に関心がもてるようになる。（思考・判断・表現） グループワークやレポート作成を通して、コミュニケーションや表現することを積極的に行うことができる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 単位の種類や互換性を説明できる。（知識・理解） 実験時の基本的な操作方法や取り扱い方を身につけることができる。（技能） 身の回りのものの性質や特徴に関心がもてるようになる。（思考・判断・表現） グループワークやレポート作成を通して、コミュニケーションや表現することを行うことができる。（関心・意欲・態度）
嗜好評価処理演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	人の好みあるいは甘い苦いと言った感覚を定量的に評価する官能評価について、基本的な知識や実施方法について理解する。また、評価結果の分析に必要とする基礎統計や統計データの見方、統計ソフトの扱い方を演習を通して理解を深める。さらに、応用課題に関するグループワークを行い、官能評価の利点と欠点を実践的に修得する。	<ul style="list-style-type: none"> 官能評価の基本的な知識や実施方法、データ処理方法を的確に説明できる。（知識・理解） 官能評価の手法を適切に選び、統計ソフトを的確に操作することができる。（技能） 官能評価の結果から、食品の嗜好性に及ぼす要因を的確に述べることができる。（思考・判断・表現） グループワークを通して、実践力や発信力を積極的に身につけることができる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 官能評価の基本的な知識や実施方法、データ処理方法を説明できる。（知識・理解） 官能評価の手法を選び、統計ソフトを操作することができる。（技能） 官能評価の結果から、食品の嗜好性に及ぼす要因を述べることができる。（思考・判断・表現） グループワークを通して、実践力や発信力を身につけることができる。（関心・意欲・態度）
調理学実習II	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	1	2	人は、調理をすることで食品の中に含まれる栄養素を効率的に吸収し、健康を維持している。また、おいしく、楽しく食事をするにより精神的にも満たされている。この科目では、調理学実習Iで学んだ基礎をふまえて、食品の特徴を理解した上で基本調理から応用調理まで幅広く学び、その現象を調理科学的立場に立って確かめる。さらに食物と健康の関係からどのように食べ物を選び、組み合わせればよいか考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作ができる。（技能） 調理特性が説明できる。（関心・意欲・態度） グループワークやレポート作成を通じて、コミュニケーション力や表現力、まとめ方を実践することができる。（思考・判断・表現） アクティブラーニングに積極的に取り組むことができる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 日本料理、西洋料理、中国料理の基本的な調理操作ができる。（技能） グループでコミュニケーションをはかりながら行動できる。（関心・意欲・態度） レポート作成ができる。（思考・判断・表現） アクティブラーニングを取り組むことができる。（関心・意欲・態度）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
フードメディア演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	SNSの普及に伴い、専門的な知識の有無を問わず、ブログやInstagramには、様々な食に関する写真やレポート（食レポ）が掲載されている。本科目では、魅力的なレポートや写真に関する基本的な知識を習得し、効果的な情報伝達の手法について、オムニバス形式で学ぶ。	・文章の書き方、写真の撮り方、テーブルコーディネートの方などを習得し応用できる。（知識・理解） ・読み手に分かりやすい情報伝達の手法を獲得し、魅力ある情報を発信することができる。（技能）	・文章の書き方、写真の撮り方、テーブルコーディネートの方などを適用することができる。（知識・理解） ・読み手に分かりやすい情報伝達の手法を獲得し、情報を発信することができる。（技能）
フードスペシャリスト論	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	フードスペシャリストとは、食の本質がおいしさや楽しさ、おもてなしにあることについて学び、幅広い知識を身につけた食の専門家である。フードスペシャリスト論の講義において、フードスペシャリスト資格について理解し、食と食生活の向上のために、食文化や食品流通、食品保蔵、食にまつわる話題などを理解する。	・フードスペシャリストについて総合的に理解し、フードスペシャリストの資格について詳細に説明できる。（知識・理解） ・食文化について総合的に理解し、日本や世界の食文化について詳細に説明できる。（知識・理解） ・食品流通について総合的に理解し、詳細に説明できる。（知識・理解） ・食品保蔵について総合的に理解し、詳細に説明できる。（知識・理解） ・食にまつわる話題について総合的に理解し、事例を挙げて詳細に説明できる。（知識・理解）	・フードスペシャリスト資格について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・食文化について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・食品流通について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・食品保蔵について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・食にまつわる話題について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解）
フードコーディネート論	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	食べるということは私たちの毎日の生活に欠かすことのできない行為である。食卓はくつろぎの場であり、人間関係を培う場、また食文化を伝承する場でもある。私たちの食環境をより楽しく、心豊かな食生活を送るために、日本の伝統的食文化、外国の食文化、メニュー、食卓、食空間を含んだ食のコーディネートとはどのようなことか考える。さらに食卓のコーディネートにおいて欠かすことのできない、食器やグラスなどの食卓にまつわるアイテムの歴史やセッティングの基本などを学ぶ。	・食品のコーディネートに関する総合的な知識を身につけ、論述および実践することができる。 ・フードスペシャリスト資格認定試験に合格できる。 ・専門フードスペシャリスト資格認定試験に挑戦する。	・食品のコーディネートに関する基本的な知識を身につけ、実践することができる。 ・フードスペシャリスト資格認定試験に挑戦できる。
フードスペシャリスト演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	この科目はフードスペシャリストの資格取得を目指すための演習である。一般および専門フードスペシャリスト試験の出題分野に対応し、嗜好評価処理、調理、食品、栄養、食料経済、食品衛生、フードコーディネートの各分野を学習することによって専門フードスペシャリスト試験合格レベルに到達する。（知識・理解）(技能)	・嗜好評価処理、調理、食品、栄養、食料経済、食品衛生、フードコーディネートの各分野を学習することによって専門フードスペシャリスト試験合格レベルに到達する。（知識・理解）(技能)	・嗜好評価処理、調理、食品、栄養、食料経済、食品衛生、フードコーディネートの各分野を学習し、一般フードスペシャリスト試験に合格するレベルにある。（知識・理解）(技能)
食品学実験	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	1	1	食品の性質や栄養成分を理解するためには、食品学で学んだ内容を的確に理解することが求められる。食品学実験において、実験の心得と基本的な操作を習得し、栄養成分の定性・定量実験を行うことで、栄養成分を理解する。様々な加工食品を実習し、加工における食品の化学変化や食品保蔵を理解する。新しい加工食品を開発することで、食品加工の原理・方法を理解する。さらに、実験レポートの作成方法や実験値の取り扱いについて理解する。	・栄養成分における定量・定性の手法について理解し、説明できる。（知識・理解） ・栄養成分における定量・定性の操作が実践できる。（技能） ・加工食品の原理について理解し、説明できる。（知識・理解） ・加工食品を製造できる。（技能） ・加工食品の原理を理解した上で、新しい加工食品を開発できる。（知識・理解） ・実験器具の取扱いができる。（技能） ・実験レポートの書き方を理解し、適切な考察ができる。（思考・判断・表現）	・栄養成分における定量・定性の手法について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・加工食品の原理について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） ・加工食品の原理を理解した上で、新しい加工食品を開発できる。（知識・理解） ・実験器具の取扱いについて理解し、基本的な操作法が説明できる。（技能） ・実験レポートの書き方を理解し、フォーマットに則ったレポートが作成できる。（思考・判断・表現）
はじめての調理（実習）	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	1	1	人間は動物の中で唯一調理をすと言われ、調理することで食品に含まれる栄養素を効率的に吸収することにより、成長し健康を維持している。また、おいしく楽しい食事は、精神的にも満たされ、人間関係を構築する上でも必要不可欠である。この授業では、調理の基本である包丁の使い方、器具の扱い、食材の計量、野菜の切り方、火の扱い方、加熱調理の方法など調理の基本を学習し、家庭における食事作りの基本的な技術を習得する。	・調理操作ができる。（技能） ・調理することに興味関心を持ち、自ら行動できる。（関心・意欲・態度） ・グループワークやレポート作成を通じて、コミュニケーション力や表現力を身につけ、応用することができる。（思考・判断・表現）	・基本的調理操作ができる。（技能） ・グループでコミュニケーションをはかりながら行動できる。（関心・意欲・態度） ・レポート作成ができる。（思考・判断・表現）
調理学実習基礎	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	1	1	人間は、調理することで食品に含まれる栄養素を効率的に吸収することにより、成長し健康を維持している。また、おいしく楽しい食事は、精神的にも満たされ、人間関係を構築する上でも必要不可欠である。調理の目的やはたす役割を理解し、この授業では、「はじめての調理実習」で修得した包丁の使い方、器具の扱い、食材の計量、野菜の切り方、火の扱い方、加熱調理の方法など調理の基本をふまえ、献立がたてられ、日常生活において活用できることを目的とする。また、調理で起こる科学的な現象の理解を深める。	・日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作ができる。（技能） ・調理特性を応用し実践できる。（関心・意欲・態度） ・グループワークやレポート作成を通じて、コミュニケーション力や表現力、まとめ方を身につけることができる。（思考・判断・表現） ・アクティブラーニングに積極的に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）	・日本料理、西洋料理、中国料理の基本的な調理操作ができる。（技能） ・グループでコミュニケーションをはかりながら行動できる。（関心・意欲・態度） ・レポート作成ができる。（思考・判断・表現） ・アクティブラーニングを取り組むことができる。（関心・意欲・態度）
フードメディア演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	SNSの普及に伴い、専門的な知識の有無を問わず、ブログやInstagramには、様々な食に関する写真やレポート（食レポ）が掲載されている。本科目では、魅力的なレポートや写真に関する基本的な知識を習得し、効果的な情報伝達の手法について、オムニバス形式で学ぶ。	・文章の書き方、写真の撮り方、テーブルコーディネートの方などを習得し応用できる。（知識・理解） ・読み手に分かりやすい情報伝達の手法を獲得し、魅力ある情報を発信することができる。（技能）	・文章の書き方、写真の撮り方、テーブルコーディネートの方などを適用することができる。（知識・理解） ・読み手に分かりやすい情報伝達の手法を獲得し、情報を発信することができる。（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
フードパッケージ実習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	1	2	市販されている多くの加工食品は、魅力的なパッケージがなされている。フードパッケージ演習は、消費者にとって魅力的な食品を開発し、その食品に対する購買意識が高まるようなパッケージを作成することにより、食品におけるパッケージの意義を理解する科目である。フードパッケージ演習において、消費者が求める食品を理解し、その食品に適したパッケージを作成する力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 市販されている様々な食品について特徴を理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 市販されている様々な食品のパッケージの特徴を理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 消費者が求める食品について理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 消費者が求めるパッケージについて理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 新たな食品を開発し、それに適したパッケージを作成した上で、食品の魅力をプレゼンテーションできる。（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> 市販されている様々な食品について特徴を理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 市販されている様々な食品のパッケージの特徴を理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 消費者が求める食品について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 消費者が求めるパッケージについて理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解）
食育演習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	食育基本法では、「食育はあらゆる世代の国民に必要なものであるが、子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである」とされている。食育演習において、栄養の基本的な知識を理解し、望ましい生活習慣を実現するための様々な手法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 栄養成分について理解し、詳細に説明できる。（知識・理解） 生活習慣を整えることの意義を理解し、事例を挙げて詳細に説明できる（知識・理解） 各ライフステージにおける生活習慣に関連した諸問題を理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 各ライフステージにおける生活習慣に関連した諸問題を解決する様々な手法について理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） 各ライフステージにおける生活習慣に関連した諸問題を解決する様々な手法を実践できる。（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養成分について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 生活習慣を整えることの意義を理解し、基本的な事項について説明できる（知識・理解） 各ライフステージにおける生活習慣に関連した諸問題を理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 各ライフステージにおける生活習慣に関連した諸問題を解決する様々な手法について理解し、基本的な事項について説明できる。（知識・理解）
出版メディア論	文科 専門教育科目 各コース 共通 生活科学科 専門教育科目 メディア社会コース	2	1	本の出版の歴史や実際、あるいは本そのものにかかわる文化を学んでいく授業。出版文化を通して本が成り立っていくプロセスを学ぶ。あるいは、本にかかわる文化や歴史を通して、本が果たす人間や社会における意義について考えていく。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容を深く理解し、出版文化についての一定の知識をしっかりと習得できるようになる。（知識・理解） 本に関わる文化に積極的な関心をいざくことができるようになる。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容を深く理解し、出版文化についての一定の知識を習得できるようになる。（知識・理解） 本に関わる文化に関心をいざくことができるようになる。（関心・意欲・態度）
キャリアアクティブワーク	文科 専門教育科目 各コース 共通 生活科学科 専門教育科目 各コース 共通	2	2	就職活動に必要とされる、文章力、思考力、コミュニケーション力、発信力などをより実践的に習得する。グループワークなどのアクティブラーニングを通して身につけていく。	<ul style="list-style-type: none"> 社会人になるための自己分析がしっかりと出来ている。（知識・理解） 社会人としての将来のビジョンをしっかりと身につけている。（知識・理解） 社会人になるための、文章力、思考力、コミュニケーション力、発信力などをしっかりと身につけることが出来ている。（判断・思考・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人になるための自己分析がある程度出来ている。（知識・理解） 社会人としての将来のビジョンを身につけている。（知識・理解） 社会人になるための最低限の、文章力、思考力、コミュニケーション力、発信力などを身につけることが出来ている。（判断・思考・表現）